

The TENDAI journal

令和6(2024)年9月1日 日曜日
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp



広報天台

教宗派の代表が登場し、参加者全員で平和を祈った



祈りの精神を 次世代へ

比叡山宗教サミット37周年「世界平和祈りの集い」

比叡山宗教サミット37周年「世界平和祈りの集い」が8月4日、比叡山上にて開催され、諸宗教の代表者ら420名が共に世界平和へ祈りを捧げた。受け継がれてきた集いの精神を次世代へ継承するため、本年は若手宗教者の参画が積極的に推進された。(4・5面に関連記事)

連日の酷暑を考慮した熱中症対策として昨年に続き屋内外の2部構成の形をとり、延暦寺会館で「平和の式典」を、一隅を照らす会館前「祈りの広場」で「平和の祈り」を実施。3年後には40周年の節目を迎えるにあたり、祈りの意義と精神を継承することを目的に、広い世代や立場からの参画を得た。

例年宗教者が登壇していた「平和を語る」では、より幅広く多角的な視点から平和の意義や宗教者の責務を考えるため、パシフィック・PMS(ピースジャパン・メディカル・サービス)支援室室長の藤田千代子さんを講師に招いた。「平和の力を信じ

——中村先生の意志を継いで——と題して、故中村哲医師と共に歩んだパキスタン・アフガニスタンでの医療活動や、食糧支援、用水路建設といった経験を振り返り、現地の厳しい状況や平和の尊さを伝えた。

またこの集いの「祈りの精神」を将来へ継承するための取り組みを始めており、若手宗教者にも参加を呼びかけた。次世代を担う宗教者を代表して、教派神道連合会から

北川真喜子さん、神社神道から金子元紀さんが『比叡山メッセージ』を朗読。先達らによって紡がれてきた精神を再び胸に刻み、平和に向けた宗教者の使命と責務を再確認した。

「平和の祈り」では大樹孝啓天台座主親下ら9人の教宗派代表者が登壇し、文殊楼横にある「世界平和の鐘」を天台仏教青年連盟の杉谷義恭代表と甲斐健盛副代表、小林伯裕副代表が鐘打。荘厳な鐘の響きに包まれる中、会場の参加者全員で黙祷し世界平和へ祈りを捧げた。

主催者代表として挨拶された大樹座主親下は、「世界では大規模な自然災害や武力紛争が続く、命を落としている人々が多くおられる。一刻も早い復興と和解へ向かうよう、共に強く祈り続けたい」と呼びかけられた。当日、YouTubeで生配信された「平和の祈り」の様子は、公式サイトにてアーカイブ動画の視聴が可能。

HP「祈りの集い」の視聴ができます。



宮崎県日向灘を震源とする地震により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

天台宗 一隅を照らす運動総本部

極微

少子化に加え、首都圏など大都会への人口集中で住民が減り、地方都市が衰退していくとの報道が少し前、話題となっていた。長年地域の人の足となっていた路線バスも本数削減から、さらには路線廃止にまで至る地方都市が増えつつあるという。乗客の減少に加え運転手不足で、採算上やむを得ない面もあるが、買い物や病院にも行けなくなるなど住民にとっては大問題だ。▼そうなることやむなく、便利な大都市に転居する人もいるだろう。住民が減ればスーパーなど日常生活の上で必要な店が撤退し、そのために不便な土地を離れる住民が増え、ますます生活しにくい地となる。悪循環である。その結果、何十年か先には地方都市の消滅が現実化すると予想されているのだ。▼よく「地方の活性化」ということがいわれるが、現状は活性化すべき本体そのものが失われる危機に陥っているのだ。つまりは「活性化」以前の問題となっているのである。では、「対策」はあるのかということになるが、どうにも名案が思い浮かばない▼昭和30年代頃の商店街の写真を見たことがある。店の前いっぱい人があふれて、通行出来ないほど賑わっているのがよく分かる。それから考えると、都市の消滅を防ぐには、やはり「人口増」しかない。結局、少子化対策を有効に進めることが肝要であろうか。